

第19回

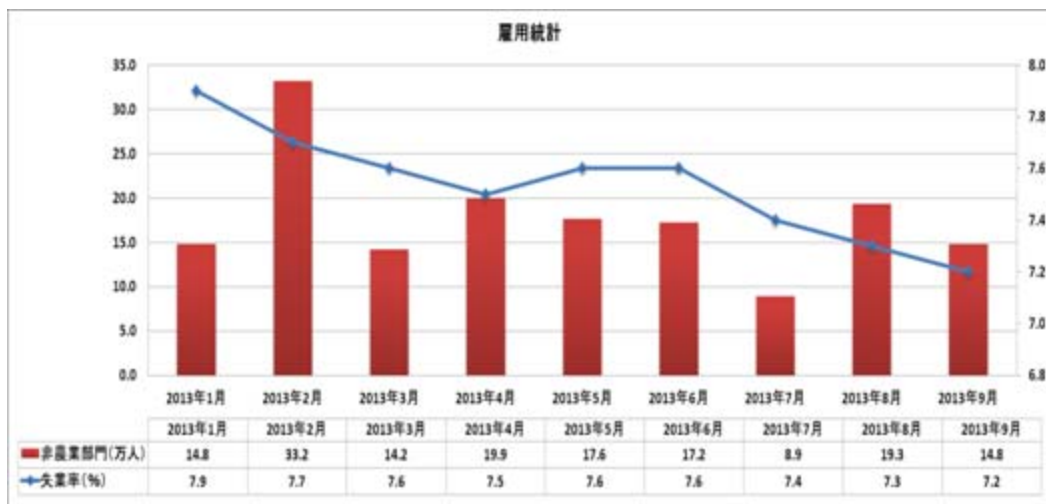
『 9月までの日米景況の足元確認 』

はじめに
「米国の衰退」という表現が使われているのが散見されるが、それはオバマ政権の最近の内外政治上のパフォーマンス不冴えを揶揄しているものであり、決して米国経済の凋落を意味してはいない。シェールガス革命と呼ばれる米国のエネルギー事情の好転はこれから数年の間に驚くほどの国際経済ひいては国際政治上の変化をもたらすだろう。

とはいえ、足元10月の経済データはあまり感心できるものではなかった。

【米国雇用統計】

今年中失業率が年初の7.9%から着実に7.2%まで下がってきたのは原因の詳細はともかくとして評価すべきだろう。しかし非農業部門での雇用実数はグラフで明らかなように20万人を上回った月は一度しかなかった。



(出所: National Federation of Independent Business)

【自動車販売台数】

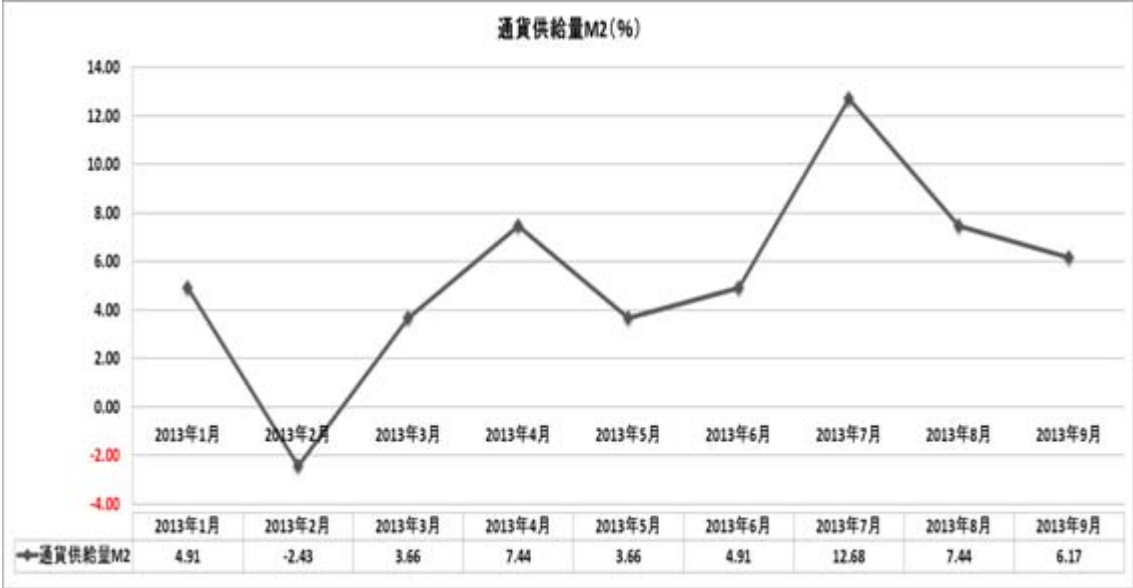
9月の自動車販売台数は年率台数にしてやっと1,500万台であり前年比で3.3%の増加に過ぎない(昨年は年間で前年比13.4%増だった)。



(出所: National Federation of Independent Business)

【通貨供給量M2】

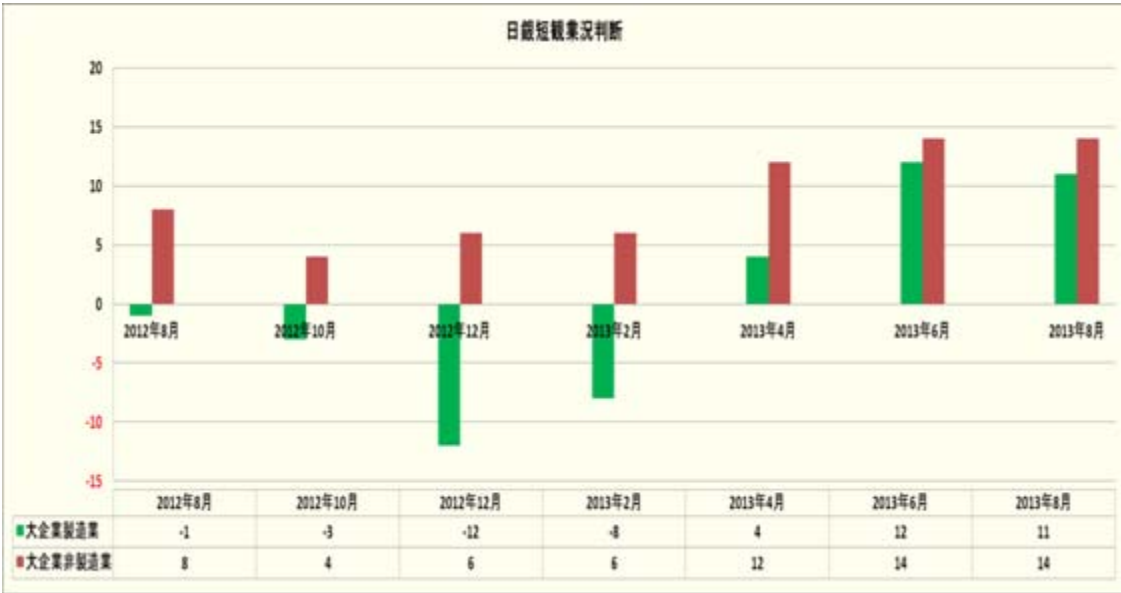
QE3(量的金融緩和政策第三弾) 出口の時期を巡る論戦は依然くすぶっているが、伸び率は7月のピーク以来2ヶ月下降しており10月が注目される。大方の見方では年内出口は無さそうだ。
 以上のほかは今月末に卸売物価、小売売上高、ケース・シラー住宅価格指数などのデータが出るが意表を突くものがあるか、多少の下振れはあっても上振れはないのではなかろうか。



かたや日本の景気指標には当月末に多くのデータが出るので、これまでのところ4点だけコメントしておこう。

【日銀短観業況判断指数】

前回調査に比べて著変はなかった。



(出所: 日本銀行)

【景気動向指数】

日銀短観と平仄が合っており8月の一致指数微増、先行指数微減と微妙な均衡状態にあるが先行きやや悲観気味であろう。



(出所:内閣府)

【M3増加率とマネタリーベース】

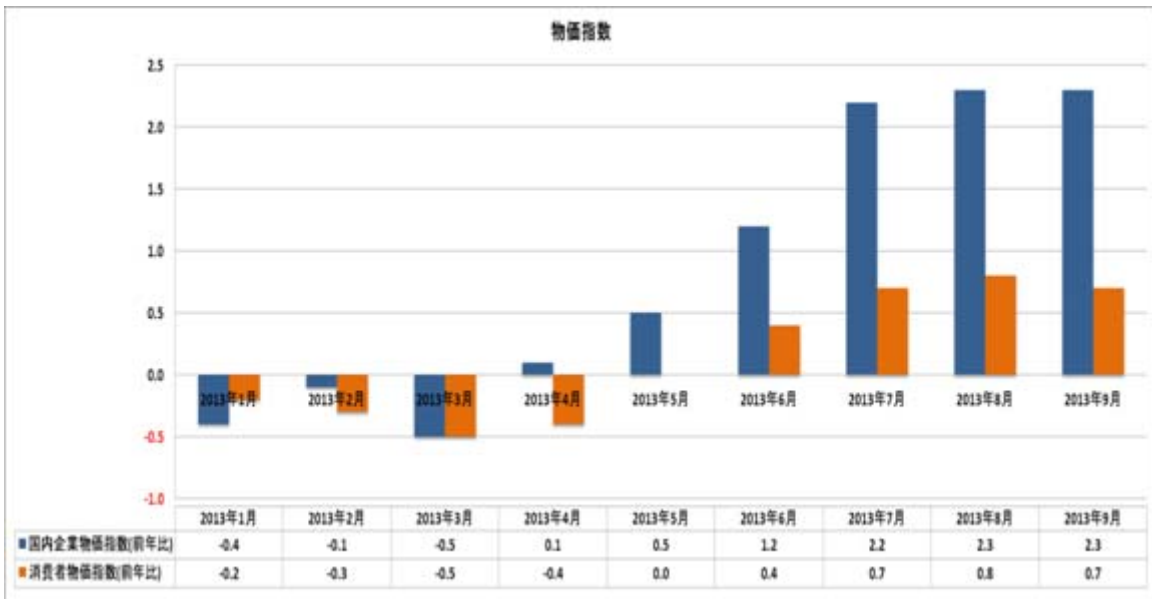
マネタリーベースの平均残高はほぼ年率40%台の伸び率を続けており、M3増加率は3%台で推移している。



(出所:日本銀行)

【物価指数】

期待される物価指数の方は、企業物価では2.3%に乗せているが消費者物価ではまだ1%にも届いていないのが観測される。エネルギー価格を除けばデフレ脱却はやっと緒につき始めたというところだろうか。



(出所:企業物価指数-日本銀行、消費者物価指数-総務省)

Author

本田 敬吉 (Keikichi Honda)

1959年東京大学法学部卒業後、東京銀行入行、常任参与チーフエコミスト。サン・マイクロシステムズ株式会社など数社で会長を務めた後、日本経団連OECD諮問委員長を引きうける。現在、財団法人国際通貨研究所理事として、為替市場の分析を行う。

お客様は、このWEBサイトに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。このWEBサイトに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。